



# Resta

リハビリテーション研修会案内 平成31年1月

Resta代表 久保田 勝徳

～参加しやすく 参加したくなる 質の高い勉強会を目指して～

全体テーマ

## 運動器疾患から学ぶリハビリテーション ～新たなるステージへの深化～

期日：平成31年3月2日(土) 10:00～16:00(9:30 受付開始)  
会場：福岡市中央区市民センター(ホール) 〒福岡県福岡市中央区赤坂2-5-8  
会費：¥4,500

◆ 10:00～11:30

### 運動器の痛みの要因 ～ClassificationとClinical Prediction Rulesの活用～

講師：田中 創 先生 (九州医療スポーツ専門学校)

◆ 11:35～12:25

### 膝関節疾患のスポーツ復帰 ～近年注目の高位脛骨骨切り術から考えるリハビリテーション～

講師：平田 裕也 先生 (ケアブリッジ株式会社 訪問看護リハビリステーションかざぐるま鶴見 COO)

◆ 13:15～14:05

### 肩関節におけるスポーツ障害 ～理学療法評価やコンディショニングのWhat's new!～

講師：小山 泰宏 先生 (博多メディカルクリニック)

◆ 14:10～15:40

### スポーツ選手らしさを取り戻す:スポーツ心理学からのメッセージ

講師：樋口 貴広 先生 (首都大学東京 教授)

◆ 15:40～16:00

### 全体討議

#### 【備考】

- ・会場座席にはテーブルがありません。  
必要な方はバインダー等をご持参下さい。
- ・会場の詳細はResta HPをご確認下さい。
- ・2ページ目に各講演の abstract を掲載しております。ご一読頂けると幸いです。  
(Resta事務局)

#### 【会場外観・周辺地図】



【申込み方法】平成29年12月からホームページをリニューアルし、研修会の申し込みが簡便になりました。

「NPO法人FSA」のホームページより「Resta研修会」の申し込みが可能です。

右記のQRコードからホームページをご確認いただき、必要事項の入力をお願い致します。

その後、受付完了メールを送信させていただきます。

E-Mail: resta\_fukuoka@yahoo.co.jp



Resta リハビリ

検索



NPO法人 FSAグループ 会長 田代 耕一

## 【講演1】 運動器の痛みの要因～ClassificationとClinical Prediction Rulesの活用～

講師：田中 創 先生

～Abstract～

運動器疾患における痛みの要因は、器質的因子から広義の神経科学的因子まで多岐に渡ります。近年、痛みそのものを治療するという概念に加え、痛みをトータルに“management”する概念の重要性が指摘されています。痛みのmanagementには、対象者が持つ痛みの性質を、各特徴から分類することが有用であり、我々は自験例から関節痛のタイプを4つにClassificationしました。

今回は、そのClassificationの特徴を紹介し、痛みに対する理学療法の効果を予測する為のClinical Prediction Rules (CPRs: 臨床予測ルール) の活用法を紹介いたします。また、痛みが運動適応や運動制御に及ぼす影響を構造学的因子、生体力学的因子、心理社会的因子の相互の関連性から検証する過程に加え、それらに対する具体的な介入手段 (Hand on / Hands off) についてご紹介いたします。

## 【講演2】 膝関節疾患のスポーツ復帰

～近年注目の高位脛骨骨切り術から考えるリハビリテーション～

講師：平田 裕也 先生

～Abstract～

ここ数年、高位脛骨骨切り術 (High Tibial Osteotomy: HTO) はプレート器具や人工骨の進歩により手術数が増加しており、注目を浴びている。HTOは、主に内側型変形性膝関節症に対して適応となり、脛骨内側を骨切りし開大することでアライメントを矯正する、また膝関節鏡手術を併用し膝関節内の修復を図る手術である。HTOはスポーツ復帰が可能であり、自験例でもアクティビティレベルの高いサッカーや空手、マラソンへの復帰が可能であった。さらに膝関節軟骨再生の分野も進んでおり、アライメント不良のある症例に対しては軟骨再生の移植術のみでは不十分であり、アライメント矯正を併用することが重要とされている。

これらのことからアライメントは非常に重要であり、しっかりと評価した上でリハビリテーションを行うことが大切であると考えている。今回はHTOから考えるアライメント、具体的なアライメント評価、そしてアプローチについて述べる。

## 【講演3】 肩関節におけるスポーツ障害

～理学療法評価やコンディショニングのWhat's new ! ～

講師：小山 泰宏 先生

～Abstract～

近年、人工知能 (artificial intelligence、AI) は人が働く労働環境を変え、自動運転制御システムでは飛躍的な発展を遂げています。しかし自動車は必ず人が評価し、技術開発によってエンジンやエネルギー供給などの性能が改良されることはあっても、これらのものやシステムは普遍的かつ無くなることはありません。肩関節疾患の治療でも、解剖学や運動学の温故知新を学び、呼吸 (Respiration) という人が生まれながら必要不可欠な活動への段階的な介入、改善は普遍的と考えます。

当院の基本コンセプトは、スポーツ動作で必要な動作パターンやスキルに繋がる人の動き (movement) から変えることを追求し、まずは矢状面上での脊柱可動性を高める、体幹から四肢を分離させることと決めています。システム構築では、オリジナルのPentagon evaluation of baseball shoulder and elbow を作成、評価することで医師やトレーナーと情報を共有し、選手やチームには可視化して機能低下をフィードバックでき、機能改善を認める場合、より高いセルフエフィカシーが得られることを期待しており、今回は、その一部の成果について皆さんにご報告させていただきます。

## 【講演4】 スポーツ選手らしさを取り戻す～スポーツ心理学からのメッセージ～

講師：樋口 貴広 先生

～Abstract～

スポーツ選手の卓越性は、優れた身体機能だけにとどまらない。優れた状況判断や予測力も、選手の卓越性を示す重要な要素である。スポーツ心理学の研究成果は、この優れた状況判断や予測力がいつでもどこでも発揮されるのではなく、実際のスポーツ競技場面に近い状況で発揮されることを示している。すなわち、選手は“競技環境の中で動きながら予測し、判断する能力”を磨いているといえる。このように考えれば、リハビリテーションを通して“スポーツ選手らしさ”を取り戻すということは、身体機能の回復にとどまらず、動きながら予測し判断する能力の回復にまで及ぶといえよう。本話題提供では、こうした主張の根拠となるスポーツ心理学の成果について紹介し、セラピストの方々へのメッセージとしたい。